

2016年度特定共同研究申請書

1.応募領域（丸を付けてください） 古代史料領域 中世史料領域 ○近世史料領域 海外史料領域 複合史料領域
2.申請課題名 近世初期大名家における大身家臣史料群の研究資源化
3 新規・継続の別 新規
4.申請者 近世史料部・教授・小宮木代良
5.所内共同研究者 近世史料部・教授・佐藤孝之 近世史料部・准教授・及川 亘
6.希望する研究期間 2016年度～ 2017年度 （ 2年間）
7.課題の概要(400字程度) 近世初期大名家における政治史研究の深化にとって、現時点でもっともその分析が俟たれる各大家の家臣史料、とりわけ、相当量以上の史料から成る大身家臣家の史料の分析が、これからの中心課題のひとつとなると思われる。本計画は、前期の拠点共同研究における近世史料領域の課題「佐賀藩家臣多久家史料の研究」を前提にして、近世前期の佐賀藩の政治史分析の深化にとって重要な多久家史料の分析を進め、さらに、分析にあたっては、佐賀藩と当該期にも政治的関係を深くしていた九州諸藩の大家家文書およびその大身家臣家文書、佐賀藩執政の位置にあった多久家の同僚でもある佐賀藩大身家臣家史料（坊所鍋島家史料等）との関連性を確認・整理していくことにも注目する。このような近世初期九州地域に関する残存史料の分析・整理を通じて、政治的ネットワークの明瞭化のための作業を進めること目的とする。
8.研究の目的(400字程度) 今後の藩政史研究の活性化を図る前提として、膨大な量の近世大名家史料群と、その大名の家臣家に伝来した文書群との間の関連を、複合的に分析しつつ研究を進める必要がある。また、その際には、周辺諸藩の関連史料にも目配りする必要がある。そのような研究の重要な事例として、佐賀鍋島藩における重臣家多久家に伝来した史料を中心とした研究を進めたい。 本共同研究における分析作業の中心は、多久家史料一点毎の分析の深化（年次比定・人物比定・内容理解等）であり、その過程において他の史料と多久家史料との関係性を示す情

報が付与されることとなる。そのために、分担史料一点ごとに、全参加者による共同の点検・確認・新たな情報交換等を行う場を持つ（読み合わせを主とする研究会及びウェブ上の共有システムによるデータの共有）。本研究の目的は、こうした作業によってもたらされる多久家史料一点ごとの研究データを蓄積し、それを総合することによって、当該期の政治ネットワークの全体像をあきらかにすることにある。

9. 共同利用・共同研究として進める意義と期待される研究成果(400 字程度)

現在すすめている特定共同研究課題「佐賀藩家臣多久家史料の研究」は、二年度目を迎えているが、初年度の共同研究員 7 名、二年度の共同研究員 8 名のほとんどは、佐賀地域において、自治体の史料集刊行、博物館・資料館における地域史研究に関わってきた。現在、共同研究により、互いの知見や経験の密度の高い交流が行われ、確実に様々なものの共有化が進みつつある。さらに、本課題においてあと二年間、こうした共同研究が継続すれば、今後の当該地域における地域史研究の担い手の強化・増加が実現することが期待されるとともに、史料編纂所としても、相当の経験の蓄積を必要とする当該地域近世史料の分析を進行させ、編纂への活用をはかることが期待される。

10. 研究の実施計画

現在進行中の特定共同研究「佐賀藩家臣多久家史料の研究」において、現段階では、その終了までに 200 点程度の多久家史料の分析（年次比定・人物比定・内容理解等）が見込まれるが、対象としている近世初期部分の多久家史料の全体は 700 点余である。共同の確認作業の遂行それ自体に大きな意味を持たせているため、拙速は避けたいが、様子を見ながら作業の進め方を逐次検討し、共同研究による本申請課題二年間の終了までには、共同研究としての成果全体の見通しを、ある程度まとまったものとして示せるようにしたい。以上を前提に、2016 年度は、多久と史料編纂所の両所において、上記の作業を行うための研究会を最低一回ずつ行う。

11. 研究成果の公開計画

一点ごとの分析による成果については、紙媒体の報告書もしくは、PDF 等による公開を検討する。

また、撮影されたデジタル画像（史料編纂所のデジタル撮影システムに拠る）の活用・公開をはかるための検討を行う。

また、古文書への関心が高い当該地域における公開研究会の開催を検討する。

12. 共同研究員にもとめる役割

分担した多久家文書の解読、内容分析、年次比定、人物比定、関連する他の史料の確認。その分析結果を持ち寄り、相互に確認作業を進めるための共同作業・研究会への参加。多久家史料分析を通じて得られた研究成果の報告。